

CS01-3 医学教育におけるモデル・コア・カリキュラムの導入と改訂

奈良 信雄¹

¹東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター長

現代の医学・医療の発展を受けて、医学教育にも改革が求められる。すなわち、膨大な学習量のすべてを教えることはできなくなった反面、一方では医師になるのに必須の知識・技能は確実に医学生に修得させなければならない。これらの要求に応えるには、旧来の講義中心の教育では対応できず、むしろコアとなる必須部分は教育し、それ以外は学生自身が自己学習する能力を涵養し、生涯教育にも通じる能力を身につけさせることが重要になる。さらに各医学部の独自性を尊重し、積極的に特色ある選択カリキュラムを導入することも望まれる。

こうした背景から、平成13年に医学教育モデル・コア・カリキュラムが策定された。学習領域がA（基本事項）、B（医学一般）、C（人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療）、D（全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療）、E（診療の基本）、F（医学・医療と社会）、G（臨床実習）に区分され、学習目標が掲載されている。臨床実習を受ける前には共用試験（CBT、OSCE）に合格しておくことが要求される。医学教育モデル・コア・カリキュラムでは従来の学体系を排除し、基礎医学と臨床医学を統合した点に特徴がある。

医学教育モデル・コア・カリキュラムは平成19年度、22年度に改訂された。22年度の改訂では特に臨床実習の内容を明文化し、臨床実習終了時点で修得しておくべきコンピテンシーが列挙された。医の安全、地域医療など社会からの要請が大きい事項も充実された。